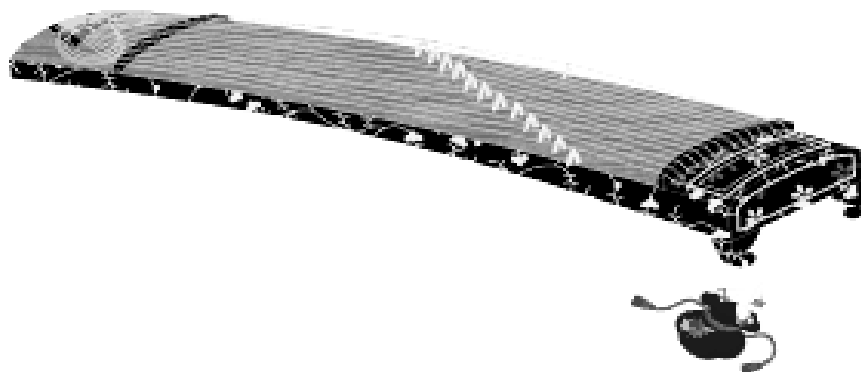


愛知県高等学校文化連盟

日本音楽部門 第37回発表会(県大会)

～ 箏曲・能楽・津軽三味線 ～

曲目・演目紹介



(1) 風薫る (作曲 野村祐子) 光ヶ丘女子高等学校

この曲は、「夢」「希望」といった若い日の思い出を彷彿させる曲調となっています。前半は初夏の爽やかな風の中での優しい語り合い、中盤では軽やかな風に心を躍らせる乙女の姿をイメージさせます。後半は強く吹き抜ける風を表現しており、どんな困難にも諦めずに立ち向かう勇気さえも湧いてきます。パートごとに異なるリズムとハーモニーで様々な風による香りや想いを届けるだけでなく、皆様の心に響くような演奏を心掛けたいです。

(2) 風の舞 (作曲 江戸信吾) 愛知県立衣台高等学校

この曲は、燃えるような夕焼け色(パーミリオン)の空に吹く様々な風を、二面の箏と十七絃で表現したものです。次々と変化する空の万華鏡を、お楽しみください。

(3) 妖精（エルフ）（作曲 吉崎克彦）・・・・・・・・・・ 愛知県立半田高等学校

この曲は、妖精の世界をモチーフに作曲されました。妖精のはかなさから軽やかに飛び、陽気に踊る様子まで箏の音色で表現します。妖精の住む神秘的な空間を想像しながらお楽しみください。

(4) 三つのおはなし（作曲 大政直人）・・・・・・・・・・ 藤ノ花女子高等学校

第一楽章「星」…慌ただしい日常の中では気づかない、夜空の美しさ。星々の煌めきに心を奪われ、時間を忘れて見入っていると、流星群が降り注ぎ、夜空に吸い込まれるような感覚が全身を包み込む。

第三楽章「光」…夜空の星々が放つ光、地上の生き物が放つ生命力の輝き。何万光年という距離をまっすぐに進み続ける光の力強さ、過酷な環境でも撓やかに生き抜く生命力の力強さに心打たれ、闇の中に一筋の希望の光を見出だす。

曲がもつ神秘的で幻想的な世界をお楽しみいただけるように、心を込めて精一杯演奏いたします。

(5) 地下室のメロディー（作曲 市川 慎）・・・・・・・・・・ 名古屋市立菊里高等学校

この曲は、地下室で一人演奏をしているところに、一人、また一人と集まってきて、音を膨らませていく場面から始まり、他にはない異質な雰囲気醸し出していきます。

自分たちで考え、作り上げていく部分が多く、なかなかまとまらないこともあったのですが、何度も練習を重ねるうちに、納得のいく形になったと思います。この曲の世界観、面白さを十分に表現し、お楽しみいただけるよう演奏します。

(6) EMOTION ～ときめき～（作曲 水野利彦）・・・愛知県立豊田東高等学校

この曲はときめきの心を表現しています。流れるリズム、情熱のメロディー、ビートの利いた音色をお楽しみください。全員で息を合わせて弾くことを心掛けて練習してきました。一体感のある演奏が見せ場ですので、その部分を聴いてください。

(7) SAKURA（作曲 水川寿也）・・・・・・・・・・ 愛知県立江南高等学校

今回演奏する「SAKURA」は、誰もが知っている「さくら」のメロディーをモチーフに作曲されたもので、緩急のあるテンポの中に、力強い旋律や「さくら」のメロディーが繰り返され、目の前に桜の情景が浮かんでくるような曲になっています。あたり一面の満開の桜や、美しく散る夜桜など、それぞれの桜の情景を思い浮かべながら聴いていただけたらと思います。

(8) 春の詩集 (作曲 牧野由多可) 愛知県立一宮西高等学校

暖かい春の陽気と厳しい冬の寒さが入り交じる、三寒四温の季節。華やかで美しく、何処か哀愁の漂う情景が臉の裏に映るような曲です。春の訪れを誘うような一筆のソロから始まり、雪解けや芽吹きを想起させる、歓びに満ちた力強くも繊細な旋律、吹き抜けていく春一番。冬に閉じ込められた景色が色鮮やかに蘇り、抜けるような青空に花卉が散っていく…各パートの掛け合いやユニゾン、強弱などを移り変わる春に合わせて自在に表現します。束の間の春の先取りをお楽しみ頂けるよう、心を込めて演奏します。

(9) 桜ゆらら (作曲 吉崎克彦) 修文学院高等学校

春が訪れ、桜の花が美しく咲き誇っています。ひとひら、ひとひらの花のかぐわしき香に寄せて華やぐ気持ちやときめく気持ちを、箏の音色で表現できればと思います。

(10) 絃歌 (作曲 肥後一郎) 愛知県立東海南高等学校

絃歌とは、箏をひき詩をうたうことです。肥後一郎作曲の「絃歌」には声楽が含まれていません。それは独奏箏に託されています。時に緊張感に満ち激しく、時に哀感を含めてうたい上げていく独奏箏と、その独奏箏と対話するように響く合奏群の音色を楽しんでいただけたらうれしいです。一音一音を大切に聴いて下さる皆様への感謝と大好きな箏への思いを込めて演奏します。どうぞお聴きください。

(11) 螺鈿 (作曲 沢井忠夫) 愛知県立鳴海高等学校

そもそも「螺鈿」とは、虹色に光る貝の裏側を散りばめた綺麗な伝統工芸です。本日演奏する「螺鈿」は、一章・二章から構成される曲です。一章は変拍子や瞬間的転調などで、さまざまな螺鈿細工の趣がつつられています。二章は一転、光によってきらきら変化する貝殻の美しさが、ゆったりと歌うように表現されています。そんな螺鈿のように、力強く綺麗に演奏できるよう、部員みんなで心をこめて演奏したいと思います。ぜひお聴きください。

(12) 雪三態 (作曲 長沢勝俊) 菊華高等学校

東北地方で唄われている「上見れば虫コ、中見れば綿コ、下見れば雪コ」というわらべ唄があります。そこには子供たちの新鮮でリアルな観察眼と、雪に対するあこがれとロマンがあり、この曲はそれらを基調として作られており、雪の世界が描かれています。独奏箏、独奏十七絃を合わせ6パートによる小協奏曲的な形式で、雪の持つ様々な表情を思い浮かべながら心をついに演奏いたします。

(13) 星のように (作曲 松本雅夫) 愛知県立豊田高等学校

この曲は、若い楽友の結婚のお祝いとして作曲されました。
一箏、二箏、十七絃の3つのパートの掛け合いが、夜空のあちらこちらでキラキラと光り輝く星の様子を表現しています。
少ない人数ですが、ひとりひとり気持ちを込めて弾き、夜空にたくさんの星を輝かせたいと思います。

(14) 羽衣 (作者不詳) 名古屋市立名東高等学校

三保の松原の漁師、白龍 (はくりょう) は仲間と釣りに出た折に、松の枝にかかっていた美しい衣を見つけ、持ち帰って家宝にしようとしています。そこへ天女が現れ、その羽衣がないと天に帰れないから返してほしいと頼みます。初めは聞き入れなかった白龍 (はくりょう) もだんだんと天女を哀れに思い、舞を見せる代わりに衣を返すことを約束します。羽衣をまとった天女は美しく舞いながら彼方の富士山へ舞い上がり、霞に紛れて消えていきます。精一杯演じますので、最後までご覧ください。

(15) 新・夢いろは詩 (作曲 武田佳泉) 愛知県立名古屋西高等学校

「新・夢いろは詩」は創作者である武田佳泉 (たけだかなみ) さんが高校生の時に作曲されました。津軽三味線の力強さを存分に感じられる、名古屋西高校津軽三味線部の代表曲をお聴きください。

本日は、私たちの発表会 (県大会) をお聴き下さいまして、ありがとうございました。

この発表会のために、私たち部員一同は、日頃の練習の成果が発揮できるよう努力を重ねてまいりました。これからも伝統の音楽を楽しみながら部活動に励んでゆきますので、変わらぬ御支援をお願いいたします。

